

ひょうご伝説紀行

- 語り継がれる村・人・習俗 -

陰陽師

こけ地蔵と呪いの文字



伝説 陰陽師

こけ地蔵と呪いの文字

紀行 陰陽師 ～晴明と道満～

- ・道満屋敷とこけ地蔵
- ・セイメイさん
- ・道満塚・晴明塚
- ・慶明寺の碑

関連情報 用語解説

参考書籍

所在地リスト

陰陽師

こけ地蔵と呪いの文字

加古川市（かこがわし）の天下原（あまがはら）に、「こけ地蔵」というお地蔵様があります。前へかたむいて、今にも倒れそうなこのお地蔵様には、こんな話が伝わっていました。

1200年ほど昔にさかのぼります。平安時代の中ごろ、都の貴族たちは呪（のろ）いや怨霊（おんりょう）、あたりなどを、心から恐れていました。藤原氏（ふじわらし）の陰謀（いんぼう）で、はるか大宰府（だざいふ）に流されて亡くなった、菅原道真（すがわらのみちざね）のあたりはことに有名です。そんな時代に、陰陽師（おんみょうじ）は、天文や暦（こよみ）を見きわめ、吉凶を占い、神仏にいのって病気を治し、怨霊を祓（はら）うことなどを仕事にしていました。

しかし時には人を呪い、時には呪殺（じゅさつ）する——それができると信じられていましたから——ことさえおこなう陰陽師もいたのです。

数多い陰陽師たちの中でも、特に有名なのが安倍晴明（あべのせいめい）と、その競争相手だった芦屋道満（あしやどうまん）でした。

道満は、現在の加古川市の岸のあたりに生まれました。その一生はなぞに包まれています。陰陽師として一流の術を身につけていたことは確かなようです。道満の屋敷にある井戸からは、毎夜式神（しきがみ）の火の玉が飛び出し、田畑や野をこえて飛んでゆくのが見られたといいます。村人たちはそれを「道満さんの一つ火」と呼びました。一つ火は、天下原までやってくると、そこの地蔵にぶつかって消えるのでした。そのたびにたおれたお地蔵様を村人たちが起こしていましたので、いつしか「こけ地蔵」と呼ばれるようになったのでした。

やがて道満は、そのうでを見こまれて、京の都で貴族たちのために術を使うようになりました。それがやがて、大事件をまき起こします。

御堂関白道長（みどうかんぱくみちなが）は、都の中に建てた法成寺（ほうじょうじ）に、毎日のように参拝していました。あるとき、いつものように牛車（ぎっしゃ）から降りて、寺の門をくぐろうとすると、いつもかわいがって連れてくる犬が道長の前に立ちふさがり、どうしても退こうとしません。無理に入ろうとすると、衣（ころも）のすそをくわえて、ぐいぐいと引っ張ります。

「これはどうしたことだろう。」

道長は、さっそく名高い陰陽師、安倍晴明を呼びにやりました。

やってきた晴明は、占いを立てると静かに言いました。

「だれかが道長様を呪い殺そうとして、道の下に呪いの品をうめています。もし、この上を通っていたら、大変なことになるところでした。犬は不思議な力を持っているから、道長様にお知らせしようとしたのでしよう。」

「いったいどこにうめられているかわかるか。」

「もちろん、たやすいことです。」

晴明が示した場所をほらせてみると、二枚の皿を合わせて、黄色いこよりで十文字にしぼったものが出てきました。開けてみると、中には何も入っていません。ただ、真っ赤な呪いの文字がひとつ、書かれていただけでした。

「私以外にこの術を知っているのは、道満法師だけです。問いただしてみましよう。」

晴明は一枚の紙を取り出すと、鳥の姿に折って呪文（じゅもん）をとええました。紙はたちまち白い鷺（さぎ）となって空へまいあがります。鷺はひとすじに飛んで、一軒の古い家へと飛び込みました。

家の中にいた道満法師はとらえられて、道長の前へ引き出されました。

「いったいだれにたのまれたのだ。」

道長の問いに、道満はごう然と答えました。

「左大臣の藤原顕光（ふじわらのあきみつ）様に頼まれたのですよ。」

左大臣顕光は同じ藤原氏の一族ですが、道長の競争相手です。道長は烈火（れっか）のように怒りましたが、道満法師ほどの術を心得た陰陽師を殺せば、どれほどのたたりがあるかわかりません。道満法師は死罪をまぬかれました。二度とこのような術を使わないよう命ぜられて、道満は、生まれ故郷の播磨（はりま）へ追放されました。

その後の道満がどうなったのか、くわしいことはわかりません。佐用郡（さようぐん）に移り住み、そこで亡くなったと『峰相記（みねあいき）』は伝えています。そしてその子孫は播磨一円に散らばって、占いや薬作りをしたともいいます。

紀行「陰陽師 ～清明と道満～」

陰陽師（おんみょうじ）という言葉が、世間に知れ渡ったのは、やはり夢枕獏の小説と、岡野玲子の漫画の影響によるものであろう。これに映画やテレビドラマが拍車をかけたことは疑いない。不思議な呪術（じゅじゅつ）を駆使し、怪異を退治するという、あたかも超能力者のように描かれている陰陽師だが、たたりや呪（のろ）いが実際にあると信じられていた時代のことである。

その陰陽師の中でも、スーパースターになったのが安倍清明（あべのせいめい）である。呪術の達人、式神を駆使する彼は、並びなき陰陽師として女性に人気絶大で、京都の清明神社は、もうでる人が絶えないという。

しかしその清明の伝説が、いくつも播磨（はりま）に残っているのはなぜだろう。清明は摂津（せつつ）の阿倍野（あべの）で生まれた人で、墓所は京都の嵯峨（さが）にある。播磨との接点は、彼が播磨守に任ぜられたことだろうけれど、実際に播磨で暮らしたわけではない。それでも神戸市西区から加古川市（かこがわし）、佐用町（さようちょう）と、彼の伝説が伝わる場所が点在している。

その播磨を根城にしていたのが、清明のライバル、芦屋道満（あしやどうまん）である。「正義の味方」というイメージが定着した清明に対し、道満は悪役だ。道満は道長暗殺を請け負ったが、その呪法を清明に見破られて播磨へ追放されてしまう。

道満屋敷とこけ地蔵



正岸寺

道満法師は加古川の岸村で生まれたと言われ、その屋敷は、加古川市の正岸寺（しょうがんじ）にあったとされている。JRの宝殿駅（ほうでんえき）から、加古川バイパスの高架をくぐって北へ7～800m行くと、南西方向にのびて、村の中を通る細い道がある。そこを100mほど入った所に、正岸寺がある。

境内の前は保育園になっていて、屋敷跡の面影は知るすべもないが、『播磨鑑（はりまかがみ）』などによると、かつては五畝（せ）ほどの屋敷地があったらしい。また、屋敷の傍らには井戸があったということだが、これも埋められてしまって、どこであったか今はわからない。



芦屋道満の像と位牌



道満の像



こけ地蔵

正岸寺境内の西側には、道満法師を祭る祠（ほこら）があった。中には、道満法師の位牌（いはい）と小像があり、今も大切に祭られている。祠の扉を開いて顔を拝ませてもらったら、少し彩色のはげ落ちた道満法師が、むっとしたような表情で前方をにらんでいた。

この屋敷跡から、直線距離で2.5kmほど東へ行った所にあるのが、こけ地蔵である。西側から平荘湖（へいそうこ）へと上る道の途中にあるが、目立たないのでよく注意していないと見落としてしまうだろう。すぐそばにあるたこ焼き屋を目印にするとよい。

お地蔵様は、本当にこけそうである。30度くらいは前に倒れていて、正面から顔を拝もうとすると、しゃがみこまなくてはならない。石棺のふたの内側に刻まれたお地蔵様である。石棺としてはかなり大きなものだけれど、どの場合もそうであるように、この古墳から掘り出されたものかはわからない。この場合には、すぐそばに平荘湖古墳群があるから、そこから持ってきた可能性があるとは思うが。

今ももうでる人がずいぶんいるようで、お地蔵様の前には、花やおさい銭だけでなく、小さな人形なども手向けられていた。



こけ地蔵

セイメイさん



セイメイさん



セイメイさんの顔

加古川には、晴明に関する場所もある。加古川線の厄神駅（やくじんえき）に近い「セイメイさん」である。厄神駅から南へ200mほどの道のそばにあるが、質素なお堂だから地元の方に尋ねないと、わからないかもしれない。

お堂の中には、凝灰岩に彫られたごく素朴な仏像が祭られている。厄神駅を作るときに掘り出されたというが、どうやらこれも石棺のふたに刻まれたものようだ。仏像を彫り慣れた人の手になるものではなさそうで、どんな人が作ったのか気になるところである。

どんな病気も治してくれる、霊験あらたかなセイメイさんを、地元の人たちは大切に守っている。

道満塚・晴明塚



道満塚



道満塚宝篋印塔

その道満と晴明が、佐用町で仲良く祭られている。西播磨天台がある大撫山（おおなでやま）の北に位置する、大木谷（おおきだに）の村である。道満は都を追放された後、この付近に住んだともいう。東播磨よりもずっと懐が深い里山に囲まれた、静かな村は棚田の風景がとても美しく、日本の棚田100選にも選ばれている。

その大木谷は二またに分かれていて、東が大木谷甲、西が乙である。晴明塚は大木谷甲に、道満塚は乙にそれぞれ祭られているが、道満にしてみれば、こんな所でまで甲乙をつけられるのかと、歯がみしているかもしれない。お互いの塚の間に尾根がのびていて、見通すことができないのが、せめてもの救いであろうか。



大木谷甲の棚田



晴明塚



道満塚から見た山並みと棚田



道満塚に集められた五輪塔



晴明塚宝篋印塔



塔の梵字

どちらの塚へも、案内の看板があるから迷う心配はない。西の大木谷乙への道をしばらく行くと、右手に細く急な坂道があらわれるから、そのまま登ってゆくと道満塚へ導かれる。明るい尾根の頂上には、方形の壇があって、その中心に宝篋印塔（ほうきょういんとう）が立っている。一方の晴明塚は、分岐から東の道をゆくとすぐである。こちら道満塚同様、宝篋印塔が立っているが、その奥にお堂があって、小さな厨子（ずし）に入れられた仏像や記帳用のノートが置かれている。

それにしても、いったいなぜこの場所に、二人が祭られるようになったのだろう。そして、どうして互いが見えないように祭られたのだろう。謎は多い。

慶明寺の碑



晴明自筆の碑



晴明自筆の碑



梵字の碑文

国道175号線の玉津北交差点から東へ300mほど入った、神戸市西区平野町にある慶明寺（けいめいじ）には、晴明自筆と伝える石碑がある。自然石の一面に、梵字（ぼんじ）が彫られているが、風化が進んで、肉眼ではほとんど判読できないまでになっている。この石の下には、なぜかわからないが、鎌倉時代の悪党「花岡太郎」が封じられているという。時代も何もあったものではないが、それだけ晴明がスターだったということなのだろう。

県下で道満や晴明の伝説を伝える場所は、他にもいくつかあるそうだ。不思議な陰陽道へのあこがれは、今も昔も変わらないということだろうか。ひとつずつ探して訪ねれば、式神くらい飛ばせるようになるかもしれない。

用語解説

【陰陽師】おんみょうじ（おんようじ）

律令国家で、中務省（なかつかさしょう）所管の陰陽寮に置かれた職員。天文、暦の算定、吉凶の占いをおこなう呪術師。陰陽道は、中世には貴族から武士へと広がったが、室町時代末ごろにはしだいに衰え、民間で占いや祈祷（きとう）、薬の製造などをするようになった。

【安倍晴明】あべのせいめい

平安時代中期の陰陽師（921～1005）。後に陰陽道を司る土御門家（つちみかどけ）の祖。賀茂忠行・保憲父子に陰陽・推算の術を学んで、式神を使い、天文を解する陰陽家となったという。事変を予知し、芦屋道満による藤原道長呪殺を防いだ逸話が伝えられている。

【芦屋道満】あしやどうまん

蘆屋道満とも記述する。

平安時代中期の僧、陰陽師（生没年不詳）。道摩法師（どうまほうし）とも呼ばれる。道摩家は陰陽道の名家である。江戸時代の地誌『播磨鑑（はりまかがみ）』では、播磨国岸村（加古川市西神吉町岸）の出身とする。安倍晴明の好敵手とされ、『宇治拾遺物語（うじしゅういものがたり）』によれば、藤原道長を呪殺しようとして安倍晴明に看破され、捕らえられて播磨へ追放されたという。

【畝】せ

日本古来の面積の単位。1畝は、約100平方メートル。

【石棺仏】せっかんぶつ

石棺の部材を利用して作られた石仏。石棺の蓋（ふた）のような板状の石材をそのまま利用して、浮き彫りで石仏をあらわしたものが多い。加古川市、高砂市、小野市、加西市など、加古川流域西部に多く分布する。13～16世紀に製作されたものが多いと考えられている。

【宇治拾遺物語】うじしゅういものがたり

鎌倉時代初めごろに編集された物語集。編者、正確な成立年代は不明。全15巻からなる。仏教的な説話、舌切りすずめ、わらしべ長者のような民話など、さまざまな伝承を収録しており、民俗学的にも重要な資料である。

【平荘湖古墳群】へいそうここふんぐん

加古川市平荘町の人造湖である平荘湖とその周辺に分布する古墳群。平荘湖のために約50基が水没した。最も古い古墳は、5世紀後半にさかのぼるが、大部分の古墳は6～7世紀に築造されたものである。平荘湖古墳群の中には、百濟系といわれる初期の須恵器を出土した池尻2号墳、金銅製（こんどうせい）の馬具、金糸などを出土した池尻15号墳、金製垂飾付（たれかざりつき）耳飾を出土したカンス塚古墳など、注目される古墳も多い。

【宝篋印塔】ほうきょういんとう

本来は「宝篋印陀羅尼經（ほうきょういんだらにきょう）」を納めるための塔。日本では平安時代末ごろから作られるようになり、鎌倉時代中ごろからはその役割が、墓碑や供養塔に変化していった。多くの場合石塔である。

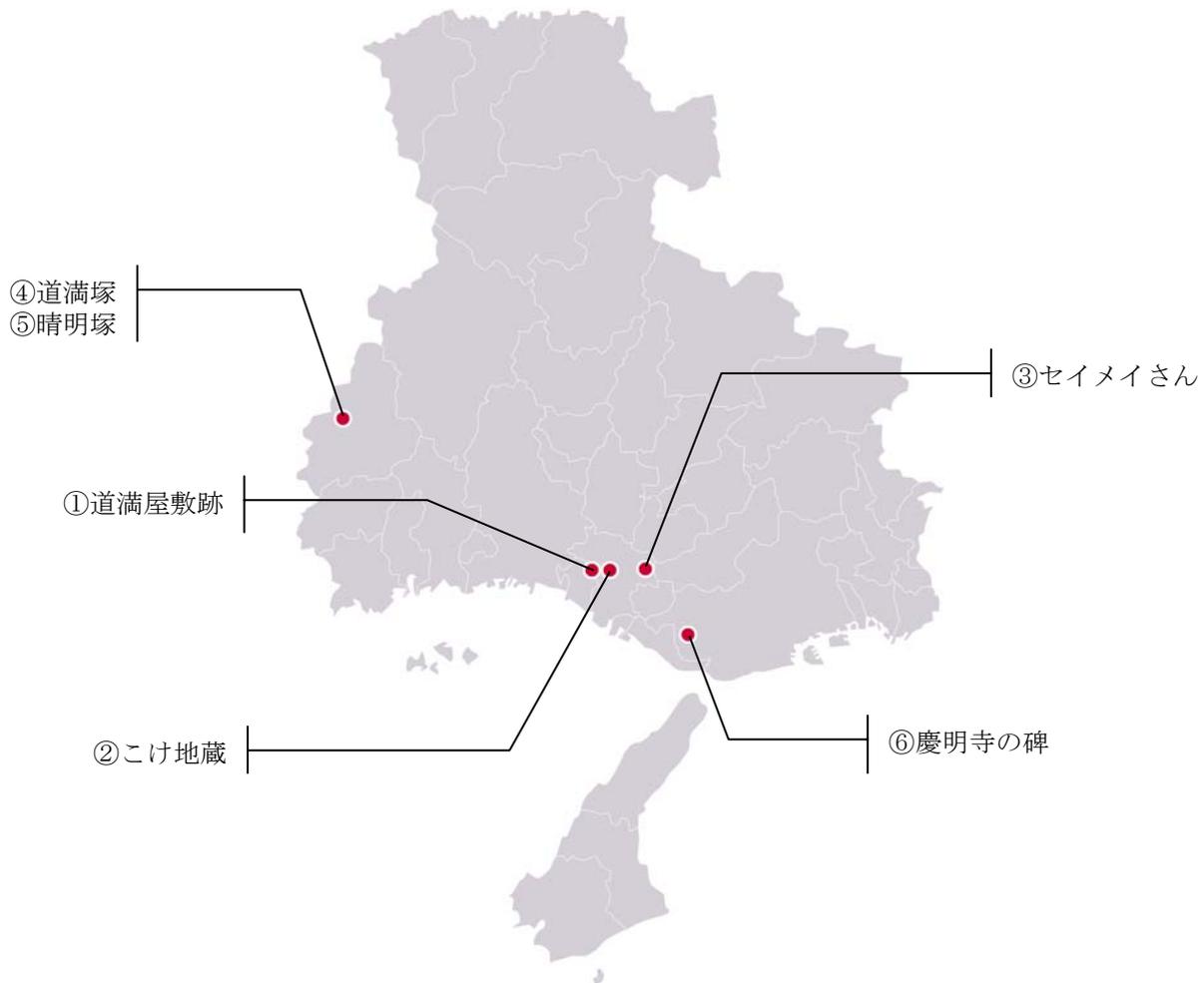
【悪党】あくとう

本来は「悪者」を意味するが、日本史では、鎌倉時代末期から室町時代初めにかけて活動した、荘園領主（貴族）、幕府などに抵抗する、独立性をもった在地の集団（武士）をさす。悪党は中央政府から見た、「荘園を侵して荘園領主や政権に反抗する者」の呼び名である。鎌倉幕府打倒の戦いで知られる、河内国の楠木正成も悪党である。

参考書籍

	書籍名	刊行年	編著者名	発行者
歴史・文化等	佐用町史 中巻	1980	佐用町史編さん委員会	佐用町
	はりま伝説散歩	2002	橘川真一	神戸新聞総合出版センター

所在地リスト



①道満屋敷跡	加古川市西神吉町岸 (正岸寺)
②こけ地蔵	加古川市東神吉町天下原
③セイメイさん	加古川市上荘町国包
④道満塚	佐用町乙大木谷
⑤晴明塚	佐用町甲大木谷
⑥慶明寺の碑	神戸市西区平野町慶明97 慶明寺前

ひょうご歴史ステーション「ひょうご伝説紀行」は、兵庫県立歴史博物館により管理・運営しております。サイトで使用するテキスト・画像などのコンテンツ全般の著作権は当館に帰属し、無断での複写・転用・転載などを禁止いたします。

ひょうご伝説紀行

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystation/legend/>

編集発行 兵庫県立歴史博物館

〒670-0012 兵庫県姫路市本町68 TEL 0792-88-9011

第2刷 2009年4月1日